

「構想段階の議論の区切り」として

2005.08.23 土肥 紀久

この数ヶ月業界団体の職責、自身の健康的な事由 etc により P I 外環沿線会議に出席出来ないでおり、申し訳なく存じています。外環の必要性ということですがいろいろな観点からの検討は不可欠であります。計画路線にひっかかっている 40 年近くペンディングになっている立場から考えれば商売をしている場合は親子二代 or 三代にわたって、人生設計さえ大きくゆるがされています。このようなケースは、少なくとも私の近隣の商店街だけでも相当数にのぼります。店舗の改・増築さえままならず又、事業の継承などに関しても大きな支障を来しております。

そのような観点から出来るだけ早期に必要な議論の議論に目途をつけていただきたいと考えています。

私は、外環本線は東京にとって必要というのであれば仕方ないかなと思っています。ただし、青梅街道インターに関しては、地域の話し合いなどで、反対の意見が多く出ておりそれぞれ、的を射たご意見だと思います。ただ私が地域の商工会議所、法人会、業界団体 etc の会合に出ますと、賛成意見もかなり多いのです。ただしこういった方は、地域の話し合いでは、いろいろな理由（たとえば自分のお客さんが反対運動をしている）で賛成意見を述べてはいません。有識者の方々の意見のとりまとめの際もこういった考えもあることを殆んどとらえていませんでした。議論が百出した現在もう一度適切なアンケートをとってはいかがでしょうか。又、杉並と練馬は境を接しているわけですが互いの意見交換会などは十分しているのでしょうか。とくに、I C に関して道路一本をへだてているだけなのに、どのように対応されているのか疑問に思っています。